

たみちちょう 田道町遺跡

宮城県教育委員会 黒田智章

- 所 在 地** 宮城県石巻市田道町二丁目
- 立地環境** 石巻平野東部、北上川右岸の標高 1.5 ~ 2 m の自然堤防
- 発見遺構** 掘立柱建物、堅穴建物、溝、井戸、土坑など
- 年 代** 8世紀前半～10世紀初頭

遺跡の概要

田道町遺跡は石巻平野南部に位置し、大きく蛇行し南流する北上川河口近くの右岸、標高 1.5 ~ 2 m の自然堤防上に立地している（第 1 図）。

本遺跡の約 7 km 西には牡鹿柵・牡鹿郡家と考えられている赤井官衙遺跡があり、約 0.5 km 北東には「上」「毛」などの墨書土器が採集されている清水尻遺跡がある。

これまでに 1977 年（昭和 52 年度）の遺跡南東部を対象とした確認調査と、1992 ~ 1993 年（平成 4 年度）の遺跡西部（A 地点）と中央部（B・C 地点）を対象とした本発掘調査の、2 度にわたる調査が行われている。調査の結果、8 世紀前半～10 世紀初頭まで継続する集落が確認され、その一画が有力者の居宅と考えられている（第 2 図）。

集落と居宅の構造

居宅とされるのは遺跡中央部に位置する C 地点の建物群である。建物主軸が北を向く一辺 7 ~ 10 m の大型堅穴建物が検出され、1 号 → 4 号 → 2 号 → 3 号 b → 3 号 a と変遷することが確認されている。これらの堅穴建物では、1 号から 8 世紀前半の須恵器壺や非クロクロ調整の土師器壺・甕、2 号から 8 世紀末～9 世紀初頭の須恵器壺・蓋、3 号 a から 9 世紀中頃～10 世紀初頭頃の須恵器壺やクロクロ調整のある土師器壺などが出土しており、大型堅穴建物がほぼ同じ場所で建替えを繰り返しながら継続していたと考えられる。このほか、1 号からは鉄製釣針、3 号 a からは鉄製刀子、3 号 b からは銅帶金具（巡方）が出土している（第 3 図）。

その西側には掘立柱建物が多く認められ、特に南北棟を中心とした一群は 2 列に並ぶように検出された。この中には 2 間 × 2 間の小規模な総柱建物 2 棟も含まれる。3 号掘立柱建物北西隅の柱穴を切るピットからは、礎板に転用されたとみられる延暦 11（792）年銘の木簡が出土している。

これらの建物群の東側・南側にはいくつかの溝があり、区画溝として報告されているが（石巻市 1995）、検出されたのは一部のため、居宅に伴うとの見解や全体を囲むとの見解に対して、慎重な意見もある（菅原 2008）。

居宅域北側の A 地点でも建物群が確認されているが、その様相には違いがみられる。堅穴建物は 7 棟検出されているが、一辺が 3 ~ 5 m と C 地点の建物に比べて規模は小さく、建物主軸が北で東に 20° ほど傾いている。14 号から非クロクロ調整の土師器が出土しているが、他の堅穴建物からは時代が分かれるような遺物は出土していない。掘立柱建物は堅穴建物と建物方向が同じものと、45° 傾くもの



第 1 図 田道町遺跡の位置

との2群が認められる。方向が同じ一群はA地点の掘立柱建物と比較して規模が大きい。A地点でも2間×2間の総柱建物が2棟検出されているが、C地点の総柱建物に対して比較的大きいことが指摘できる。A地点の建物群は、居宅周辺に広がる一般集落、もしくは居宅の運営を補完する集落とみられる。

「真野公」木簡と辺境の地域支配

田道町遺跡で特筆すべき遺物に、C地点で出土した延暦11(792)年銘木簡が挙げられる(第4図)。木簡には「真野公穴万呂」の人名が記載されているが、この「真野公」は『日本後紀』弘仁6(815)年三月丁酉条の改賜姓記事に確認できるもので、古代牡鹿郡内にあたる現在の石巻市真野の地名に由来すると考えられている(平川1995)。現地名十公(君)姓は国家に服属した蝦夷に与えられた「夷姓」であり、「真野公」集団は牡鹿地方の有力な蝦夷系豪族であったとみられる。

木簡の内容は出舉についてのものである。記された出舉額をみると、蝦夷系である「真野公」集団に対して「内国」並みに出舉を実施しており(平川1995)、8世紀末の地域支配の様相を物語るきわめて重要な資料であると言える。

また、前掲の改賜姓記事では遠田郡の「田夷」諸氏の一つとして真野公が現れるが、田道町遺跡出土木簡や石巻市真野地名などから、この遠田郡の真野公は牡鹿郡から移住したものと考えられている(平川1995)。これを元に、記事中にみられる真野公以外の「田夷」諸氏も遠田郡周辺を故地とする有力蝦夷系集団で、遠田郡の建郡にあたって諸郡から移配されたのではないかとの指摘がなされている(第5図、熊谷1995)。

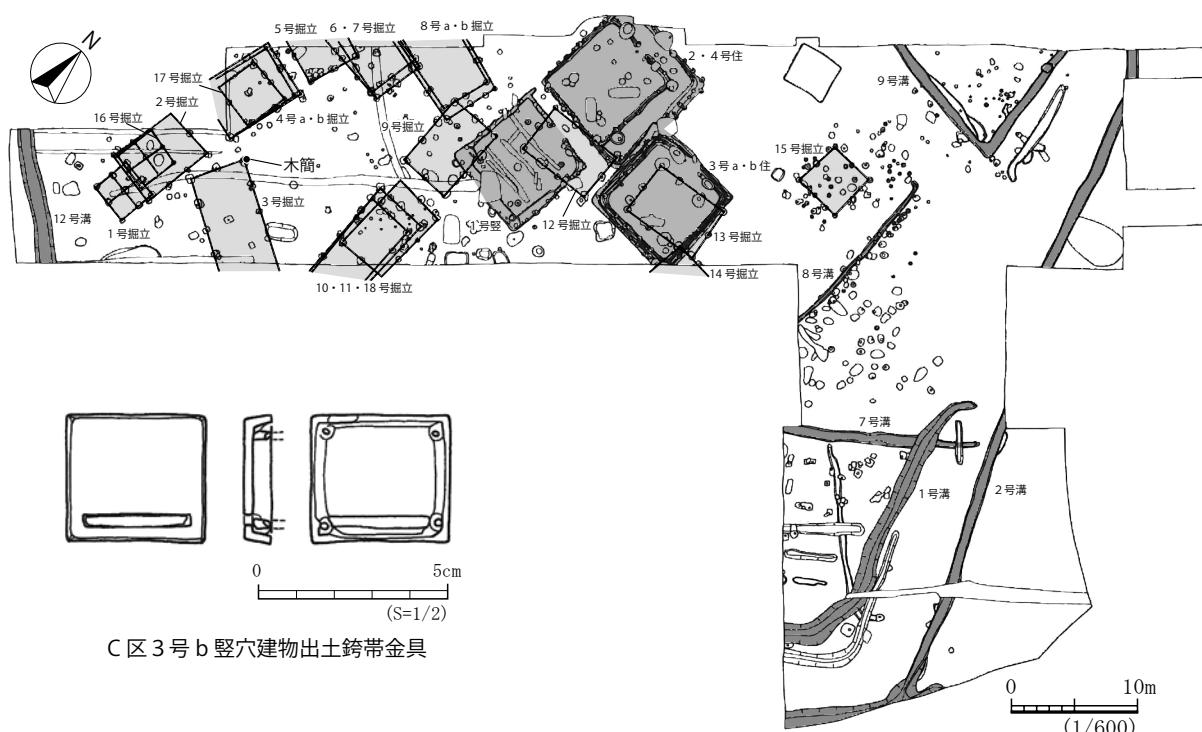
田道町遺跡は、この延暦11(792)年銘木簡の内容や、検出された大型竪穴建物、総柱建物を含む2列に並ぶ掘立柱建物、出土した鎔帶金具などから、律令期に牡鹿郡の地域支配に組み込まれた、蝦夷系豪族に関わる居宅であったと考えられる。

関連文献

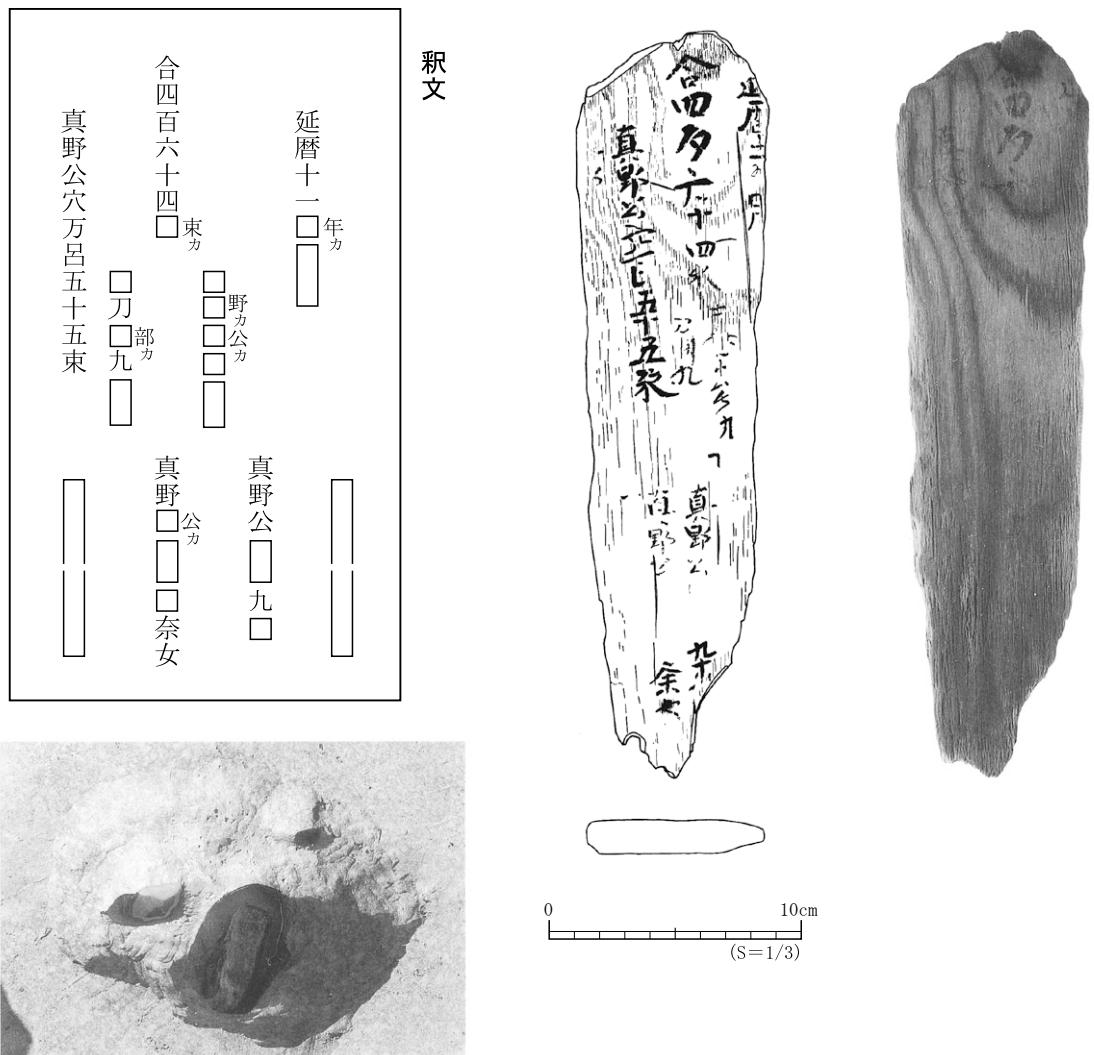
- 石巻市教育委員会 1992『田道町遺跡－A地点発掘調査概報－』石巻市文化財調査報告書第4集
石巻市教育委員会 1993『田道町遺跡－B・C地点発掘調査概報－』石巻市文化財調査報告書第5集
石巻市教育委員会 1995『田道町遺跡』石巻市文化財調査報告書第7集
石巻市史編さん委員会 1995『石巻の歴史』第7巻考古編
石巻市史編さん委員会 1996『石巻の歴史』第1巻通史編(上)
熊谷公男 1995「田道町遺跡C地点出土木簡の「真野公」をめぐって」『田道町遺跡』石巻市文化財調査報告書第7集
菅原祥夫 2008「東北の豪族居宅(補遺)」『蔵王東麓の郷土誌－中橋彰吾先生追悼論文集－』
芳賀英実 1993「宮城県内出土の鎔帶金具について－田道町遺跡C地点出土の鎔帶金具を主に－」『石巻文化センター調査研究報告』第2号
平川 南 1995「宮城県石巻市田道町遺跡木簡」『田道町遺跡』石巻市文化財調査報告書第7集



第2図 調査区配置図（石巻市都市計画マップと石巻市 1995 から作成）



第3図 C区調査区平面図（石巻市 1995 から作成、一部加筆）



木簡出土状況

第4図 C区ピット出土木簡(石巻市1995から作成)



第5図 遠田郡「田夷」諸氏関係地名地図 (石巻市1995から作成、一部加筆)